

さらに「違いの分かる」人になりたい



高島 英 幸

もう五十年ほど前になるでしょうか、「違いの分かる男」というキャッチコピーで、コーヒー会社のコマーシャルがあったことを覚えておられますか。高倉健なども出演していましたが、記憶にあるのは、作家の阿川弘之氏が蒸気機関車で旅する姿です。澄んだ女性ボーカルの曲が流れ、コーヒーの香りがするような懐かしい雰囲気になりました。

当時（今もですが）私は、ブラックよりミルクコーヒー派で、「産地」「豆の種類」や「挽き方」で味も香りも違うことが十分には分かりません。紅茶でも「産地」や「収穫時期」などで同じような違いがあるようです。いずれにもミルクを入れて飲むので、通の方には「ごめんさい」。

今回、テーマを「違い」が分かることの

楽しさと大切さになりました。四十年以上携わってきた英語教育の中で、この「違い」に敏感になることを学びました。カナダの第二言語習得論学者、スウェイン先生が八十年代に、「学習者に英語を話させることが、学習者自身がどの程度話せるのか、あるいは、話せないのか、ゴールまでの距離がどの位あるのか、そして自分の文法力にどのような不備があるのかを自身で知る重要な機会になる」と説きました。「学習者に話す機会を保障してください」という主張でした。そのとき、「違いを知ること」の大切さを理解し、以来、さまざまな考え方に役立てる中で、面白い発見がありました。「違いを知る」ことの大切さや面白さについて、具体的に三つの例をご紹介します。英語を教えるには日本語の知識も大切ですが、逆に英語の知識から日本語や日本での体験を見直すこともできると思います。

◆例一：「豚肉」と「ポーク」

「昨日、美味しい肉を食べたよ」と言えは「へえ、何の肉？ 牛肉、豚肉、鶏肉？」と返ってくるのが自然ですね。英語ではそれぞれ *beef*, *pork*, *chicken* です。「牛肉美味しかったよ」は *I enjoyed eating beef*、*「豚肉なら」* *I enjoyed eating*

をいただきました。「We enjoyed eating a pig (a piglet)」とJさんにメールで報告しました。返ってきた返事は期待外れの、*Great Did you enjoy gazpacho?* と違う料理について尋ねられ、*pig* は *pork* の言い違いではないかとの指摘ではありませんでした。Gazpacho (ガスパチョ) とはアンダルシア地方生まれのトマトベースの冷たいスープで、次の訪問地リスボン (ポルトガル) で、皆と楽しみました。こちらも美味で私の好きな優しい甘さのスープでした。

◆例二：「まちがいがし」と *Spot the Difference*
ある航空会社の機内誌に、私の苦手な「まちがいがし」のコーナーがあります。日本語のページには「二枚の絵には違うところが七つあります。どこでしょう？」とあります。私は二か所見つけるのがやっとです。すぐ解答のページをめくって見てしまいます。答えを見れば微妙な違いに感心します。七つすべて見つけられる人は私にとっっては天才です。

同じ雑誌の英語のページを見ると、*Spot the Difference* とありました。そこには *Can you find 7 differences between the two pictures below?* (下の二枚の絵の七

つの違いが探せますか) と書かれています。日本語と英語の指示は同じですが、タイトルは、日本語では「間違え」探し、英語では「違い」探しなのです。日本では一枚の「正しい元の絵」があり、そこから意図的に一部を変えた絵を作り、両者を見比べて違う部分を探す遊びが起源のようです。「元の絵」「正しい状態」から加えられた「違い」を「間違え」とみなしたのでしょう。これに対して英語は、「二枚を観察して違いを見つけて」。正しいか間違いかではなく、違いに注目しているのだと思います。(二〇二五年九月号では、内容や表現が一部変わっており、日本語はタイトルが「ちがいはどこだ？」となっています)。

◆例三：「現在完了形」と「過去形」

中学三年で習った「現在完了形」と「過去形」の違いを覚えておられますか。次の二文の意味の違いを区別してみてください。

- ① *Mary has never seen snow in her life.*
- ② *Mary never saw snow in her life.*

日本語では、どちらも「メアリーは人生で雪を見たことがなかった」ですが、①ではメアリーは今も生きていて、これから見る可能性があり、②ではすでにメア



「チーム高島」の研究メンバーたちと「ガスパチョ」をいただいたリスボンのレストランにて

pork となります。つい、「豚 = pig」と考えて、*I enjoyed pig* と言ってしまうかもしれませんが、もちろん通じません。言葉は、一度発せられると、聞き手は「この人は何を言おうとしているのかな」と理解しようとしてくれるからです。母語話者なら、*You mean pork* と優しく確認してくれるかもしれません。友人のアメリカ人のJさんなら必ず、*Wow, did you eat a whole pig?* と冗談で返してくれます。

二〇二五年九月、研究仲間三人とスペイン・マドリッドを訪れたときの夕食で、生後二十日までの子豚を丸焼きにした *cochinillo asado* (コチニリーヨ・アサード)

リーの人生が終わっているのです、もう雪を見る機会はありません。現在完了は「話している時より前のことが今も続いている、あるいは話している内容と今も関連をもっている」「現在の状況を表し、過去形は「過去のあるとき」に起きたことを事実として語っています」。

同じように、電車中の到着駅に関するアナウンスで、場面の違いが伝わってくる伝わる二つのパターンがあります。

- ③ *The next station will be Shibuya.*
- ④ *The next station is Shibuya.*

どちらも「次の駅は、渋谷である」という同じ情報を伝えていますが、③は助動詞 *will* を使って「これから進む先」としての移動している様子を伝えていますが、④は地図上の確実な事実」を伝えており、③のような動きは感じられません。

違いが分かる世界が二倍面白くなります。関東と関西で桜餅の様相が違うこと、エスカレーターでの立ち位置が逆になることなど、日常にもたくさん「違い」があります。さらにことばや世界観の違いを知り、より「違いの分かる男」になりたいと思っています。